

高校商業 専門問題例

例 1 次の各文の（a）～（j）にあてはまる最も適切な語句を答えなさい。

- (1) (a) は、買い物をしたりサービスを受けたりしたとき、銀行などの金融機関が発行するキャッシュカードを利用して即時決済を可能にする支払手段である。
- (2) 原材料や部品の調達から、生産、販売までの業務を一貫した流れとして管理することを（b）という。
- (3) 交通機関や情報通信技術の発達などにより、人・もの・金・情報が国境を越えて行きかうようになった国際社会を（c）という。
- (4) 商品の欠陥により消費者に損害を与えた場合、製造業者などに損害賠償の責任を負うように規定した法律を（d）という。
- (5) 自己の商品に責任をもち、他社の商品と区別するためにつける特別の記号や文字などのことをブランドといい、生産者がつけるブランドを（e），売買業者がつけるブランドを（f）という。
- (6) 原価計算において、多種類の製品の製造のために共通して消費され、特定の製品の原価として直接集計することのできない製造費用を（g）という。この製造費用がある一定の基準によって各製品に割り当てる手続きを（h）という。
- (7) 企業会計原則の一般原則には、「企業会計は、企業の（i）および経営成績について、（j）な報告を提供するものでなければならない。」と示されている。

（令和元年度）

例 2 次の(1)～(6)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 1kg につき ¥800の商品を 380kg 仕入れ、諸掛り ¥26,000を支払った。この商品に諸掛込原価の 25%の利益を見込んで販売すると、総売上高はいくらになるか求めなさい。
- (2) ある株式を1株につき ¥560で 5,000株売却した。手取金はいくらになるか求めなさい。ただし、約定代金の 0.7%に ¥2,400を加えた手数料を支払うものとする。
- (3) 次にあげる金額から売上高総利益率を求めなさい。

売 上 高	¥24,500,000	仕 入 高	¥17,640,000
期首商品棚卸高	¥3,250,000	期末商品棚卸高	¥3,740,000

- (4) 取得価額 ¥800,000 耐用年数 25年の固定資産を定額法によって減価償却すれば、第5期末減価償却累計額はいくらになるか求めなさい。ただし、決算は年1回、残存簿価 ¥1とする。
- (5) 標準原価計算を採用しているA製作所の当月における次の資料から賃率差異を求めなさい。ただし、解答欄の（ ）のなかに不利差異の場合にはーを、有利差異の場合には+の符号を記入しなさい。

資 料	標準賃率	¥900	標準直接作業時間	730時間
	実際賃率	¥940	実際直接作業時間	755時間

- (6) あるコンピュータシステムを 200日間運用した際の稼働率が 0.99であった。故障のために運用できなかった時間を求めなさい。ただし、毎日 24時間連続運用しているものとする。

（令和元年度）

例 3 次の(1)～(5)の各取引の仕訳を示しなさい。なお、商品に関する勘定は3分法によること。

- (1) D商事株式会社は、設立に際し、株式500株を1株につき、¥80,000で発行し、全額の引き受け、払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、1株の払込金額のうち2分の1は資本金に計上しないことにした。なお、この株式の発行に要した諸費用¥800,000は小切手を振り出して支払った。
- (2) かねて、商品代金としてE商店から裏書譲渡されていた約束手形が不渡りとなり、手形金額¥500,000と償還請求に要した諸費用¥2,000をあわせて償還請求していたが、本日、請求金額と期日以後の利息¥1,500を現金で受け取った。
- (3) F株式会社は、取得原価¥1,200,000の備品を¥560,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品に対する帳簿価額は¥750,000であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- (4) 試用販売のため、G商店に売価¥600,000の商品を送付していたが、本日、同店から商品を買い取るとの通知を受けた。なお、商品の発送時に対照勘定を用いて備忘記録をしている。
- (5) 等級別総合原価計算を採用しているH製作所において、1級製品500個と2級製品1,000個が完成するとともに副産物が発生した。ただし、総合原価は¥1,100,000であり、そのうち副産物の評価額は¥50,000であった。なお、等価係数は次の各製品1個あたりの重量を基準としている。

1級製品 600g 2級製品 400g

(令和2年度)

例 4 次の(1)～(5)の問い合わせに答えなさい。

- (1) C P Uと主記憶装置との間などに置いて、処理を高速化するために一時的に用いる記憶装置のことを何というか。
- (2) システム開発の手法の1つで、システム開発の初期段階から試作品を作成して、ユーザと確認しながら進めていく開発モデルを何というか。
- (3) アイデアの発想法の1つで、「自由奔放」、「批判禁止」、「質より量」、「結合・便乗歓迎」というルールに従って、大胆かつ自由な発想でより多くのアイデアを出していく手法を何というか。
- (4) 通常はコンピュータ1台に1ライセンスの契約であるが、企業や学校など特定の場所において、複数のコンピュータで複数のユーザが使用することを一括して認める契約方法を何というか。
- (5) 平均命令実行時間が50ナノ秒のコンピュータがある。このコンピュータの性能は何MIPSになるか。

(令和2年度)

例 5 次の(1)～(4)の問い合わせに答えなさい。

- (1) WWWサービスの技術であるC o o k i eについて説明しなさい。
- (2) O 2 O(Online to Offline)について説明しなさい。
- (3) 検収について説明しなさい。
- (4) 貸し倒れについて説明しなさい。

(令和3年度)

例 6 高等学校学習指導要領「商業」について、次の(1)～(4)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の文は、「第2 課題研究」の「1 目標」である。(a)～(f)にあてはまる語句を答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・(a)な学習活動を行うことなどを通じて、ビジネスを通じ、(b)をはじめ経済社会の健全で(c)な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 商業の各分野について(d)に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を(e)し、科学的な根拠に基づいて(f)的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの(f)と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

- (2) 次の文は、「第6 商品開発と流通」の「3 内容の取扱い(1)イ」である。(a)～(c)にあてはまる語句を答えなさい。

商品開発と流通の動向・(a)を捉える学習活動及び商品開発と流通に関する具体的な事例について多面的・多角的に(b)し、考察や討論を行う学習活動を通して、企業で行われている商品開発と流通について(c)を深めることができるようすること。

- (3) 次の文は、「第11 簿記」の「3 内容の取扱い(1)イ」である。(a)にあてはまる語句を答えなさい。

基本的な会計用語については、(a)表記に慣れ親しむことができるよう留意して指導すること。

- (4) 次の文は、「第16 情報処理」の「1 目標(3)」である。(a)にあてはまる語句を答えなさい。

企業活動を(a)する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(令和3年度)

高校商業 正答例

問題番号			正 答 例
例 1	(1)	(a)	デビットカード
	(2)	(b)	サプライ・チェーン・マネジメント
	(3)	(c)	ボーダーレス社会
	(4)	(d)	製造物責任法
	(5)	(e)	ナショナルブランド
		(f)	プライベートブランド
	(6)	(g)	製造間接費
		(h)	配賦
	(7)	(i)	財政状態
		(j)	真実
例 2	(1)	¥ 4 1 2 , 5 0 0	
	(2)	¥ 2 , 7 7 8 , 0 0 0	
	(3)	3 0 %	
	(4)	¥ 1 6 0 , 0 0 0	
	(5)	(-) ¥ 3 0 , 2 0 0	
	(6)	4 8 時間	
例 3		借 方	貸 方
	(1)	当座預金 40,000,000 創立費 800,000	資本金 20,000,000 資本準備金 20,000,000 当座預金 800,000
	(2)	現金 503,500	不渡手形 502,000 受取利息 1,500
	(3)	未収金 560,000 備品減価償却累計額 450,000 固定資産売却損 190,000	備品 1,200,000
	(4)	売掛金 600,000 試用仮売上 600,000	売上 600,000 試用販売契約 600,000
	(5)	1級製品 450,000 2級製品 600,000 副産物 50,000	製造 1,100,000

問題番号		正 答 例
例 4	(1)	キャッシュメモリ
	(2)	プロトタイプモデル
	(3)	ブレーンストーミング
	(4)	サイトライセンス
	(5)	20MIPS
例 5	(1)	ウェブページを表示した利用者に対して、入力した情報やWWWサーバで処理した内容などを利用者のコンピュータ内に保存しておき、利用できるようにしたデータのこと。
	(2)	インターネットの利用者に情報やサービスを提供し、実店舗への来店やそこでの商品購入を促す活動のこと。
	(3)	商品が仕入先から到着した際に、現物を納品書や注文書控えと照合し、注文どおりの商品かどうか、数量にまちがいや荷いたみはないかなどを確認する作業のこと。
	(4)	得意先の倒産やその他の原因で、売掛金などの債権が回収できなくなること。
例 6	(1)	(a) 体験的
		(b) 地域産業
		(c) 持続的
		(d) 実務
		(e) 探究
		(f) 創造
	(2)	(a) 課題
		(b) 分析
		(c) 理解
	(3)	(a) 英語
	(4)	(a) 改善